

HP OpenView GlancePlus

HP-UX 11i v1 (11.11) 以降

ソフトウェア バージョン : C.04.60.000

インストール ガイド

Manufacturing Part Number: B3691-90084

本書の発行日 : 2006 年 10 月

ソフトウェアのリリース日 : 2006 年 10 月



ご注意

保証書

HP 製品およびサービスに対する保証は、それらの製品およびサービスに付属している保証規定に明記された条項に限られます。本書に記載された内容は、追加の保証を規定するものではありません。HP は、本書の技術的および編集上の誤りや不備について、その責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで、米国政府にライセンスが付与されます。

著作権

© Copyright 1983-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

UNIX® は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスを認可する、米国およびその他の国における登録商標です。

Motif® は、米国およびその他の国々における Open Software Foundation の登録商標です。

Adobe®, Acrobat®, および PostScript® は、米国 Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

その他の製品名は各社の商標またはサービス マークです。

サポートについて

次の HP OpenView のサポート専用 Web サイトを参照することができます。

<http://www.hp.com/managementsoftware/support>

HP OpenView オンライン サポートでは、対話型テクニカル サポート ツールをすぐにご利用いただけます。このサポート サイトでは、次の機能が用意されています。

- 技術情報の検索
- サポート ケースの登録とトラッキング、およびエンハンスメント要求の送信とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート 契約の管理
- HP サポート連絡先の検索
- 利用可能なサービスの参照
- ユーザー同士のディスカッション
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

ほとんどのサポート エリアでは、アクセスするために HP Passport ユーザーとして登録、サインインする必要があります。また、多くのサポート エリアでサポート契約が必要です。

アクセス レベルに関する詳細は以下を参照してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID の登録は以下で行うことができます。

<http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

目次

1	GlancePlus のインストール、アップグレード、および実行	7
	GlancePlus のコンポーネント	7
	gpm	7
	glance	7
	システム要件	9
	ハードウェア	9
	オペレーティング システム	9
	ソフトウェアの依存関係	9
	ディスク スペース	9
	端末	9
	ランタイム メモリ	10
	仮想環境における GlancePlus	12
	ホスト オペレーティング システムの GlancePlus	12
	ゲスト オペレーティング システムの GlancePlus	12
	GlancePlus の実行	13
2	ドキュメント	15
	リリース ノート	15
	オンライン ヘルプ	15
	ドキュメントの表示と印刷	16
	Web 上でのドキュメントの参照	16
	Adobe Acrobat ファイル	17
	ASCII テキスト ファイル	17

1 GlancePlus のインストール、アップグレード、および実行

GlancePlus のコンポーネント

GlancePlus には、Motif® インターフェイスの `gpm` と、キャラクタモード インターフェイスの `glance` という 2 つのコンポーネントがあり、非常に柔軟な処理が可能です。いずれも、同一の豊富なパフォーマンス データを処理します。

GlancePlus は、HP Integrity Virtual Machines 2.0 の監視に対応しています。詳細は、12 ページの「[仮想環境における GlancePlus](#)」を参照してください。

`gpm`

Motif インターフェイス `gpm` には、以下の用途があります。

- 多数のウィンドウ機能を備えたグラフィカル ユーザー インターフェイスでパフォーマンスを表示する
- グラフ、ハイパーリンク、ウィンドウ別、アイテム別の機能など、充実したヘルプ サブシステムを使用する
- 問題の可能性を検出したときに、アラーム機能を使用して警告する
- ユーザーが別の作業を実行中でもシステムを監視する
- PRM (Process Resource Management) 環境を管理する

`glance`

キャラクタモード インターフェイス `glance` には、以下の用途があります。

- 低速度のデータ通信環境でパフォーマンスを監視する
- システムをリモートから監視する

- X ディスプレイが使用できない場合にもシステムを監視する
- 問題の可能性を検出したときに、アラーム機能を使用して警告する

システム要件

GlancePlus をインストールする前に、システムが次の要件を満たしていることを確認してください。特に記載のない限り、これらの要件は、`gpm` と `glance` の両方に適用されます。

ハードウェア

HP 9000 サーバー、HP Integrity サーバー、および HP ワークステーション

オペレーティング システム

HP-UX 11i v1 (11.11) 以降



GlancePlus は、標準のオペレーティング システム カーネルに対応しています。重要なカーネルパラメータを変更すると、製品の適切な動作に影響を及ぼすおそれがあります。

ソフトウェアの依存関係

`gpm` に関するソフトウェア依存関係の最新情報は、リリース ノートを参照してください。

ディスク スペース

GlancePlus 製品は、初回インストール時に `/opt/` ディレクトリで約 40 MB を使用するほか、`/var/opt/perf/` ディレクトリでログ ファイル用のスペースをわずかに使用します。日本語版の製品の場合は、さらに 10 MB の容量が必要です。

端末

- `gpm`: HP X 端末または X ワークステーション ディスプレイ
- `glance`: `curses` ライブラリがサポートする端末

ランタイム メモリ

- gpm: 約 20 MB の仮想メモリ
- glance: 約 10 MB の仮想メモリ

GlancePlus のインストールまたはアップグレード

以下の手順を実行すると、10 分以内にすべてのファイルを GlancePlus ソースメディアから更新できます。工場出荷時のシステムにソフトウェアがあらかじめインストールされている場合は、以下の手順を省略して、このセクションの最後の 2 つの段落をお読みください。

▶ OV Performance Agent と共に GlancePlus を実行するには、両製品を同じリリースバージョンに更新する必要があります。

1 **root** でログインします。

2 すでに GlancePlus または OV Performance Agent をインストールしている場合は、次のように入力して `perfstat` を実行し、使用中のパフォーマンスツールを確認します。

```
/opt/perf/bin/perfstat
```

glance または gpm が実行中の場合は、プログラムを実行しているユーザーに終了するよう通知します。

3 OV Performance Agent が実行中の場合は、次のように入力して OV Performance Agent とすべてのパフォーマンス ツール デーモンを終了します。

```
/opt/perf/bin/mwa stop
```

4 次のように入力して、`midaemon` がアクティブでないことを確認します。

```
/opt/perf/bin/midaemon -T
```

5 次のように入力して、`ttd` がアクティブでないことを確認します。

```
/opt/perf/bin/ttd -k
```

▶ `ttd` を終了する場合は、実行中の ARM 装備のアプリケーションを終了してから、`ttd` と GlancePlus のプロセスを再起動してください。

- 6 再度 perfstat を実行して、すべてのパフォーマンス ツールが停止していることを確認します。
- 7 GlancePlus の初回インストール時に、/opt に 40 MB 以上のディスク スペースが確保できない場合は、十分なスペースがある場所に新しい <path>/perf ディレクトリを作成します。このディレクトリと /opt/perf との間にシンボリック リンクを作成します (シンボリック リンクの作成についての詳細は ln の man ページを参照してください)。
- 8 HP-UX に他のソフトウェア パッケージをインストールする場合と同様に、次のように swinstall を実行して GlancePlus をインストールします。

```
swinstall -s <hostname>:<depot_path> <product_bundle_ID>
```
- 9 ソースの参照先をインストール メディアに変更し、GlancePlus Pak バンドル (GlancePlus Pak を購入していない場合は、GlancePlus バンドル) を選択します。

▶ 分析フェーズでインストールが失敗した場合、他のパフォーマンス ツール (OV Performance Agent など) が実行中の可能性があります。swinstall ログ ファイルに、これらのソフトウェアの停止手順が記載されています。上記の [手順 2](#) を参照してください。

GlancePlus をインストールすると、/etc/profile で使用するファイルが自動更新され、シェル環境変数を明示的に更新しなくても、ユーザーが製品とその man ページにアクセスできるようになります。この更新内容は次回のログイン時に有効になります。製品の実行ファイルは /opt/perf/bin に、製品の man ページは /opt/perf/man に配置されます。

アプリケーションは /var/opt/perf にある parm ファイルで定義されています。システムでの用途に合わせて、parm ファイルをカスタマイズすることができます。詳細については、オンライン ヘルプの「アプリケーションの定義」を参照してください。

/opt/perf/examples/ ディレクトリには、設定ファイルと構文ファイルの例、および HP のパフォーマンス ツールをカスタマイズするために使用するプログラム ファイルのサンプルが配置されています。たとえば、/examples/adviser/ ディレクトリにはアドバイザの構文例があり、/examples/arm/ ディレクトリにはアプリケーション応答測定のサンプルファイルがあります。詳細は、/opt/perf/examples/README ファイルを参照してください。

仮想環境における GlancePlus

このバージョンの GlancePlus は、HP Integrity Virtual Machines 2.0 の監視に対応しています。ゲストオペレーティングシステムとホストオペレーティングシステムの双方に GlancePlus をインストールできます。インストール手順については、10 ページの「GlancePlus のインストールまたはアップグレード」を参照してください。

ホスト オペレーティング システムの GlancePlus

ホストオペレーティングシステムとは、HPVM をインストールしたシステムを指します。GlancePlus をホストマシンにインストールすると、次のデータを取り込むことができます。

- システム全体のパフォーマンス、アプリケーション、トランザクション、およびリソース使用量に関するデータ
- 個々の仮想マシンのパフォーマンスとリソース使用量に関するデータ

個々のゲストオペレーティングシステムのパフォーマンスとリソースに関するデータを記録するために、BYLS という新しいクラスのメトリックが導入されています。

ゲスト オペレーティング システムの GlancePlus

ゲストオペレーティングシステムとは、HPVM 上で実行されるシステムを指します。GlancePlus をゲストオペレーティングシステムにインストールすると、システム全体のパフォーマンス、リソース、およびトランザクションに関するデータを取り込むことができます。取り込まれるリソース使用量の値はすべて、論理的な使用量を表します。



すべてのメトリックとその説明が記載されたリストについては、『Dictionary of Performance Metrics』を参照してください。

GlancePlus の実行

GlancePlus を実行するには、GlancePlus がインストールされているシステムにログインする必要があります。

- 1 GlancePlus Motif インターフェイスを実行するには、ワークステーションにディスプレイをエクスポートする必要があります。次のコマンドのいずれかを使用します。

Korn シェル: **export DISPLAY=<workstationid>:0.0**

C シェル: **setenv DISPLAY <workstationid>:0.0**

Bourne シェル: **DISPLAY=<workstationid>:0.0**
export DISPLAY

<workstationid> は、GlancePlus を実行するワークステーションの名前です。

- 2 Motif インターフェイスで GlancePlus を実行するには、次のように入力します。

gpm

キャラクタ モード インターフェイスで GlancePlus を実行するには、次のように入力します。

glance

GlancePlus の削除

GlancePlus をシステムから削除する必要がある場合、/usr/sbin/ ディレクトリに格納されている swremove スクリプトを実行します。GlancePlus を削除する前に、作成されたログ ファイルおよびデータ ファイルを削除するかどうかの確認が、このスクリプトによって行われます。

次のように入力し、GlancePlus を削除します。

swremove <file_ProductID>

<file_ProductID> は、swinstall スクリプトで GlancePlus をインストールする際に用いた、個別のバンドルまたは GlancePlus Pak バンドルの一部としての ID です。

2 ドキュメント

リリース ノート

GlancePlus の今回のリリースに関する追加情報は、次の場所にある『GlancePlus リリース ノート』を参照してください。

`/opt/perf/ReleaseNotes/Glance`

オンライン ヘルプ

gpm を使用する場合：

- Motif インターフェイスで実行する GlancePlus で使用できる機能について学習するには、gpm ウィンドウの [**ヘルプ**] メニューをクリックします。
- 特定の gpm ウィンドウについてヘルプを表示するには、対象のウィンドウを表示した後、[ヘルプ] メニューから [**現ウィンドウについて**] を選択します。
- gpm ウィンドウの特定のアイテムについてヘルプを表示するには、ウィンドウの右上隅にある [**?**] ボタンをクリックし、対象のアイテムをクリックします。再度 [**?**] ボタンをクリックするまで、gpm は **アイテムについてのヘルプ** モードになります。

アイテムについてのヘルプは、アイテムにポインタを合わせてマウスの右ボタンをクリックする方法でも表示できます。

glance を使用する場合：

キャラクタ モードで実行する GlancePlus で使用できるすべての機能について調べるには、**h** コマンドを入力するか、**Help** ソフトキーを選択します。**?** を入力すると、**glance** コマンド メニューが表示されます。

ドキュメントの表示と印刷

GlancePlus ソフトウェアには、表示および印刷可能なファイルフォーマットで、標準の GlancePlus ドキュメント一式が付属しています。Adobe Acrobat フォーマット (*.pdf) のドキュメントはオンラインで表示され、必要な場合は印刷できます。ASCII テキスト (*.txt) のドキュメントも印刷可能です。vi などの UNIX テキスト エディタを使用すると、画面上でテキストファイルを表示できます。

次の表で、ドキュメント、使用されているファイル名、およびオンラインのパスを示します。

表 1 GlancePlus ドキュメント一覧

ドキュメント	ファイル名	パス
HP OpenView GlancePlus インストール ガイド	GP-install.pdf	/opt/perf/ paperdocs/gp/C/
GlancePlus for HP-UX Metrics Dictionary	metrics.txt metrics.pdf	/opt/perf/ paperdocs/gp/C/
HP OpenView Performance Agent および GlancePlus トランザクション追跡 マニュアル	tyt2.pdf	/opt/perf/ paperdocs/arm/C/
アプリケーション応答測定 API ガイド	arm2api.pdf	/opt/perf/ paperdocs/arm/C/

Web 上でのドキュメントの参照

ここにリストしているドキュメントは、以下の HP OpenView マニュアルの Web サイトでも参照できます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv

製品リスト ボックスから **glanceplus**、**リリース バージョン** (OS が自動的に選択されます) の順に選択した後、**[Open]** をクリックして目的のオンラインドキュメントを表示するか、**[Download]** をクリックして、コンピュータにファイルを保存します。

Adobe Acrobat ファイル

Adobe Acrobat ファイルは、Acrobat 7.0 で作成されました。表示する場合は、Adobe Acrobat Reader バージョン 4.0 以降を使用してください。Web ブラウザに Acrobat Reader がインストールされていない場合は、Adobe の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.adobe.com>

Acrobat Reader でドキュメントを表示している間は、1 ページ、複数ページ、または全ページ分のドキュメントを印刷できます。

HP-UX では、Adobe Acrobat Reader がシステムにインストールされていれば、`acroread` コマンドを使用して PDF ドキュメントを参照することができます。<path> の部分に `acroread` コマンドの場所を指定して、次のコマンドを入力してください。

```
<path>/acroread filename.pdf
```

ASCII テキスト ファイル

テキスト ファイルを印刷するには、次のように入力します。

```
lp -dprintername filename
```

次に例を示します。

```
lp -dros1234 metsun.txt
```

